

宝物はすぐそばに

校内研通信

第38号

R7.12.8

発行者:校内研担当 仲村智

チョコレート消費量とノーベル賞受賞者数の相関を説明できる？

12月8日(月)5校時、1年5組にて中山邦彦先生が数学の授業を公開しました。本時のねらいは、収集したデータを処理し、事柄の特徴を説明することができるようになることです。本時の内容は、もっと後に学習する内容ですが、今年度島尻地区のステップアップ研修会で取り扱った「資料の活用」をテーマに、邦彦先生独自のアレンジをいれた授業として実施しました。本来なら学習指導要領にはない「2つのデータの相関関係」を扱った内容ではあるのですが、沖縄県の学力とそれ以外の様々な興味深いデータとの相関を見つけるという、身のまわりの題材を扱うことで生徒は自分なりに「沖縄県の学力を上げるためにどうしたら良いか」を、独自の視点で分析し提案していました。データ分析の楽しさや奥深さを実感できる楽しい授業で、邦彦先生の知識の豊富さにも驚きです。素敵な授業をありがとうございました😊君たちなら沖縄県の最下位脱出も夢ではない👍



RS
みつけた!

数学の「資料の活用」とRSは密接に関係しており、資料から必要な情報を正確に読み取り、論理的に判断・考察する能力は、数学の問題解決に不可欠です。

情報の読み取りと理解:「資料の活用」では、図表、グラフ、文章などの多様な情報源から、必要なデータを正確に読み取る必要があります。これはRSの最も基本的な要素である「基本的な文の構造の理解」や「非言語情報(図表、グラフ、式など)と文の対応づけ」に直結します。

推論と判断:読み取った情報をもとに、「なぜそう言えるのか」という理由や根拠を明らかにし、論理的に推論して結論を導き出す必要があります。この「推論」の能力は、RSTでも重要な項目の一つです。

思考力・表現力:資料を分析し、自分の考えや解決過程を言葉や数、式、図、表などを用いて分かりやすく表現・説明する能力は、「数学的な表現力」であると同時に、広義の読解・表現力でもあります。

問題解決への応用:PISA(OECD生徒の学習到達度調査)における読解力は、「自らの目標を達成し、社会に参加するためにテキストなどを理解し、熟考する能力」と定義されており、「資料の活用」は現実社会の事象を数学的に捉えて問題解決に活かす、実践的な情報活用能力を育む重要な分野です。